

世界遺産登録を見据えた地域の取組を進めています！

西表島を含む「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産候補地」の世界自然遺産登録の可否を決定する審査は、今年6月24日～7月4日にバーレーンにおいて開催される予定の世界遺産委員会で行われます。

世界自然遺産登録を見据え、登録後に西表島の自然がきちんと守られていくよう適切な管理を実施するため、様々な議論が行われています。

今号では、3月6日に開催された平成29年度第2回西表島部会で話し合われた地域の取組を紹介します。



平成29年度第2回西表島部会の様子

世界遺産登録に対する住民意識について共有・やんばる地域と比較

西表島部会では、まず、世界遺産登録への地域住民の意識を調査した西表島の住民アンケートの結果について共有しました（本誌前号にて速報・今号次頁で詳細結果掲載）。また、その結果について、西表島と一緒に世界遺産に推薦されているやんばる地域の住民意識と比較しました。

西表島のアンケートでは、回収率自体は約20%ある一方で、遺産登録への意識として好意的な意見よりも否定的な意見のほうが多いこと、特に自然環境の劣化が課題だと考えている方が多いことが特徴です。議論の中で、住民への情報提供や対話の不足、行政の取り組みの遅れといったことがこの結果につながっているという意見が出されました。行政機関からも、そのような状況について理解しており、今後情報提供や保全対策の強化に取り組んでいくということが述べられました。

西表島	観点	やんばる地域
30代～60代が各20%程度 職業：観光ガイド、宿泊業の順に多い	回答者の属性	50代以上が80%程度 職業：無職、農業、主婦の順に多い
約20.0%	回収率	約9.9%
	遺産登録への意識	
1. 海の自然環境の劣化 2. 山や川の自然環境の劣化 3. ゴミの散乱	地域の課題 (トップ3)	1. 人口減少・少子高齢化 2. 経済活動の低迷 3. ノイヌ・ノネコの多さ
<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然や動植物が守られる 美しい自然が守られる →各々20%程度の方が期待	世界遺産登録により期待できること	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然や動植物が守られる 美しい自然が守られる →各々60%以上の方が期待
<ul style="list-style-type: none"> 観光関連の収益が増える 地域経済の活性化と雇用増 →70%程度の方が期待		<ul style="list-style-type: none"> 観光関連の収益が増える 地域経済の活性化と雇用増 →約53%の方が期待
<ul style="list-style-type: none"> 観光関連の収益が増える 地域経済の活性化と雇用増 →40%程度の方が期待		<ul style="list-style-type: none"> 観光関連の収益が増える 地域経済の活性化と雇用増 →約33%の方が期待

世界自然遺産登録に関する住民アンケートの調査結果報告（詳細）

平成 29 年 9 月～11 月にかけて、西表島に住んでいる人を対象に、世界自然遺産への登録に対する意識調査を実施しました。

西表島の全世帯（1,258 件）に質問票を配布し、252 件（回収率：約 20.0%）のご回答をいただきました。

アンケートにお答えいただいた方の年齢は、30 代～60 代の方が多く、職業は、観光ガイドの方が最も多く約 13.9%、宿泊業の方が約 11.9%の比率を占めました。（詳細は右表）

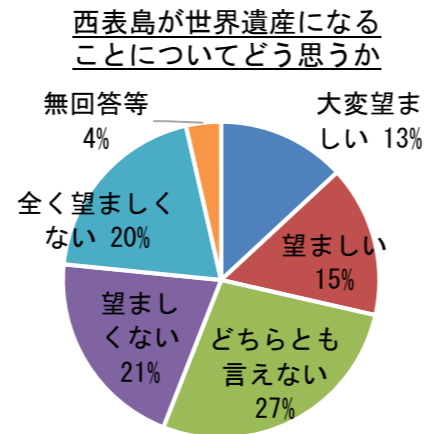
＜アンケートにお答えいただいた方の特徴（属性情報）＞

性別	回答数	比率(%)	職業	回答数	比率(%)
女性	120	47.6	観光ガイド	35	13.9
男性	114	45.2	宿泊業	30	11.9
無回答等	18	7.1	主婦	26	10.3
			無職	26	10.3
年齢	回答数	比率(%)	観光業 (ガイド以外)	回答数	比率(%)
10代	0	0.0	農業	18	7.1
20代	12	4.8	公務員	14	5.6
30代	55	21.8	飲食業	12	4.8
40代	55	21.8	教育機関	11	4.4
50代	44	17.5	交通・運輸	9	3.6
60代	57	22.6	小売業	6	2.4
70代以上	29	11.5	その他	30	11.9
無回答等	0	0.0	無回答等	14	5.6

世界自然遺産に関する認知度・意識

西表島の世界自然遺産への推薦については、既に多くの方がご存知でした。遺産登録については、好意的な意見が約 28%ある一方で、好意的でない意見も約 41%あり、現状では期待もある一方で不安も多いことがわかりました。

(認知事項)	知っていた	知らなかった	無回答等
西表島が世界自然遺産に推薦された	94.4%	4.4%	1.2%
奄美大島、徳之島、沖縄島北部と一緒に世界遺産に推薦された	85.3%	13.1%	1.6%
西表島の自然に世界的に貴重な価値がある	93.7%	5.2%	1.2%

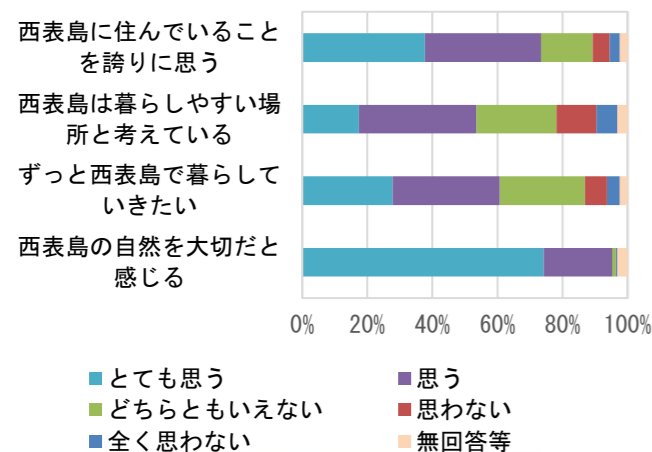


西表島における暮らしや自然についての意識、重要課題についての認識

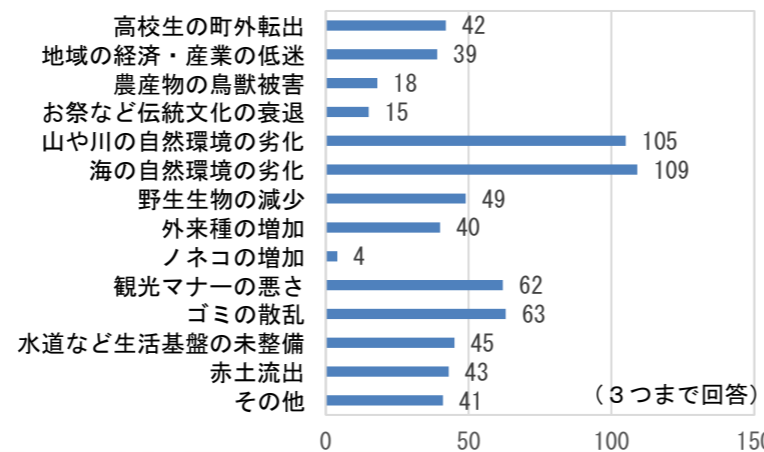
西表島での暮らしに関する意識では、70%以上の方が西表島に住んでいることを誇りに思っていることがわかりました。また、西表島の自然を大切であると、90%以上の方が感じていました。

西表島の抱える課題として、山や川、海の自然環境の劣化が特に重要な課題であるとする意見が最も多く、続いて、ゴミの散乱、観光マナーの悪さも比較的多く挙げられました。「その他」の回答には、観光客の増加による環境や生活への影響、医療問題といったことが挙げられていました。

西表島における暮らしや自然についての意識



西表島の抱える課題のうち、重要な課題は何か



地域活動や保全活動、講演会等への参加状況

この 1 年間で活動参加状況として、公民館活動や環境美化に関する活動に参加された方が多い傾向が見られました。世界遺産に関する講演会や会議等には約 38%の方が参加していました。観察会や保全活動に参加する方も、選択肢の中では少ないものの一定数みられました。

活動内容	回答数	比率※(%)
集落の美化活動や公民館活動	197	78.2
県道脇の草刈り	136	54.0
ビーチクリーン活動	113	44.8
世界遺産に関する講演会や西表島部会	96	38.1
自然や生きものの観察会	54	21.4
やまねこパトロールや交通安全運動	29	11.5
外来植物や外来カエル等の駆除	16	6.3

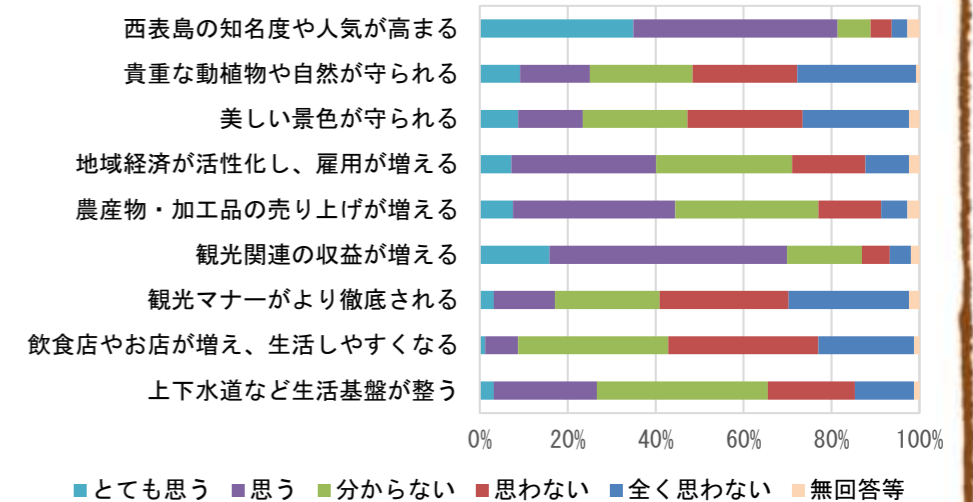
※比率は母数をアンケート回収数（252）として便宜的に算出したもの。この母数には無回答者が含まれるため、実際の比率はより高くなる。

西表島が世界自然遺産に登録された場合に期待できること

期待できることとして、80%以上の方が地域の知名度や人気が高まると考えていることがわかりました。観光関連の収益が増えること（70%程度）が次に多く、観光業を中心に地域経済が潤うことへの期待はある程度持たれていると考えられます。

一方で、貴重な自然や動植物が守られる、美しい景色が守られると回答した方は 30%に満たず、世界遺産登録が自然環境や景観の保全につながることは認識されていませんでした。

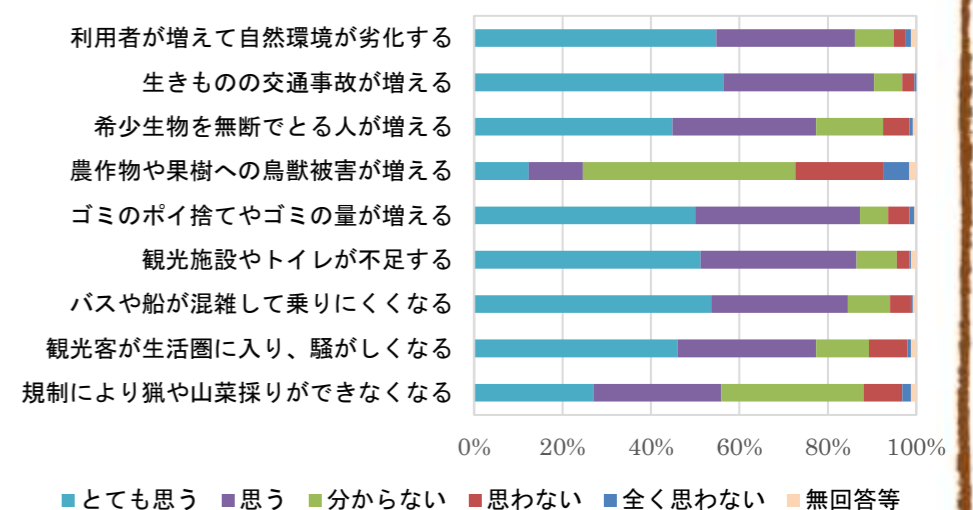
西表島が世界自然遺産へ登録された場合に期待できること



西表島が世界自然遺産に登録された場合に懸念または心配すること

懸念または心配することについては、ほとんどの項目でそう思う方の割合が軒並み高く（80%程度）、さらに、50%程度の方は「とても思う」と回答していました。利用客の増加と関連した生き物や自然環境への影響、インフラの不足、生活への影響など、幅広く大きな懸念が地域住民に持たれていることが伺えます。猟や山菜採りへの規制についての懸念・心配も 50%程度ありました。

西表島が世界自然遺産へ登録された場合に懸念または心配すること



まとめ：西表島の住民にとって島の自然はとても大切に思われており、陸域、海域を問わず自然環境の劣化が最も重要な課題として認識されていました。世界自然遺産への登録については、観光業を中心に地域経済が潤うことへの期待感はある程度持たれている一方で、登録が自然環境の保全につながることは認識されておらず、逆に観光利用の増加等に起因する自然の劣化、インフラの不足、生活への影響などの懸念・心配が多く、遺産登録を否定的に捉えている方の割合が高くなっています。世界自然遺産に向けた取組においては、西表島の自然環境の保全を確実に進め、地域住民の皆様の理解を得ていく必要があります。

持続可能な観光利用に関する取組

西表島では今年度から、自然環境を劣化させず、地域社会と調和した持続可能な形で行っていただける観光をめざして、適正利用とエコツーリズムの仕組みづくりの取組が始まりました。今年度、地域のガイド事業者の代表や地元団体、有識者、行政機関が集まる検討会が2回、より多くのガイド事業者が集まるワーキンググループがのべ8回開催され、右図のようなエコツーリズム推進の目的・基本方針(案)を設定し、フィールド利用のルール設定やガイドの登録制度などについての議論が進められているところです。

2月に行われた現地視察では、検討会のメンバーで観光利用の課題が生じている主要なフィールドを訪れ、現地状況を見ながら活発に意見が交わされました。

主な課題の一つであるガイド制度については、竹富町が届出及び登録制度の確立に向けて検討を進めています。



エコツーリズムの検討会の現地視察の様子(浦内川)

西表島におけるエコツーリズム推進の目的と基本方針(検討中)

目的

西表島の自然を損なうことなく持続的に利用し、将来にわたって自然からの恵みを得る

基本方針

- ①自然環境の保全を前提とした持続可能な利用
- ②適正利用のルール等の作成・遵守
- ③モニタリングを通じた取組の質の向上
- ④ガイドの質の向上と安全かつ魅力的な体験の提供
- ⑤地域文化や生活の尊重
- ⑥観光を通じた地域づくりの推進
- ⑦西表島エコツーリズムの情報発信

他地域でも持続可能な観光に向けた取組が進んでいます

やんばる地域では、遺産価値を保全するとともに、地域が正当な恩恵を得られるようにするため、「やんばる型森林ツーリズム」の取組が進められています。やんばる3村の役場やツーリズム事業者、林業関係者などが参加する会議をこれまで70回以上開催して検討を進め、右図のような二つの制度を設けることで持続可能な観光利用を進めていく予定です。

ガイドの登録・認定制度

- ・登録、認定の2種類のガイド
- ・全体構想を理解し、実践するガイドを登録
- ・さらに、地域に根差した経験あるガイドを認定

フィールドの利用登録制度

- ・利用できるのは登録、限定、オープンフィールドの3種類
- ・フィールド別ルールの遵守を条件に利用登録



実証実験の様子(金作原)

奄美大島と徳之島を含む奄美群島では、既にガイドの認定制度がはじまっており、さらなる取組が進められています。今後、利用者が増える可能性がある奄美大島の「金作原(きんさくばる)」において、2月16日~22日に適正利用を進めるための実証実験が行われました。実証実験では、金作原の利用者に対して、認定ガイドの利用もしくはバス利用をお願いしました。

